Ver. 260401_単施設

第〇版（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日作成）

信州大学医学部附属病院　呼吸器外科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

「胸腺上皮性腫瘍切除例における手術アプローチ別中長期成績および TNM 第 9 版の妥当性の検討」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	胸腺上皮性腫瘍切除例における手術アプローチ別中長期成績および TNM 第 9 版の妥当性の検討
所属(診療科等)	呼吸器外科
研究責任者(職名)	寺田　志洋（助教）
研究実施期間	医学部長による許可日～2029 年 3 月 31 日
研究の意義、目的	胸腺上皮性腫瘍（胸腺腫、胸腺癌、胸腺神経内分泌腫瘍）の治療では、手術による切除が重要な役割を担っています。従来は胸骨正中切開などの開胸手術が中心でしたが、近年は胸腔鏡下手術（VATS）やロボット支援下手術（RATS）など、体への負担が少ない手術方法も広く行われています。しかし、胸腺上皮性腫瘍は比較的まれな疾患であり、これらの手術方法による中長期の治療成績や再発の仕方については、まだ十分に明らかになっていません。また、胸腺上皮性腫瘍の進行度を示す TNM 分類は改訂され、第 9 版では腫瘍の大きさや周囲臓器への浸潤に関する分類が変更されました。今回の研究では、当院で胸腺上皮性腫瘍の手術を受けられた方の診療記録を調べ、開胸手術、VATS、RATS の中長期成績や再発様式を比較するとともに、新しい TNM 第 9 版が患者さんの予後を適切に分類できるかを検討することを目的としています。
対象となる方	1995 年 1 月 1 日から 2025 年 10 月 31 日までの期間に、当院呼吸器外科で胸腺上皮性腫瘍（胸腺腫、胸腺癌、胸腺神経内分泌腫瘍）に対して外科的切除を受けられた方
利用する診療記録	年齢、性別、既往歴・併存疾患、術前治療、手術日・手術方法・術式・手術時間・出血量、術後合併症・術後治療、病理診断・組織型・腫瘍径・周囲臓器への浸潤・病期、画像検査・血液検査等の検査結果、再発の有無・時期・部位、再発後治療、最終生存確認日・死亡の有無など
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、手術方法（開胸、VATS、RATS）ごとの中長期の治療成績や再発様式を比較します。また、胸腺腫および胸腺癌の一部の症例について、TNM 分類第 8 版と第 9 版に基づいて分類し、全生存率および無再発生存率を比較することで、新しい TNM 第 9 版の妥当性を検討します。

第〇版（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日作成）

共同研究機関名	本研究は、信州大学のみで実施されます。
問い合わせ先	氏名（所属・職名）:　寺田　志洋　（呼吸器外科　助教） 電話:0263-37-2657

【既存の診療記録、検査結果】を研究、調査、集計しますので、【新たな診察や検査、検体の採取】の必要はありません。

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、参加取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。